

## 21 クワック (Quack)

### 一八世紀オランダの巡回医療職について

石田 純 郎

一八〇〇年頃までのヨーロッパにおいて、医学、医療、医療職の構造は、均質な現在と異なり、きわめて複雑であった。だいいち、外科、産科からして、内科と対峙する医療分野・医学であり、それらの従事者たち（外科医、産婆・産科医、内科医）は、全く異なった職業に分類された。包括概念としての医学、医師はまだ成立していなかった。

そして、町政府から公認されたこれら医療職以外に、クワック(Quack 英語、k w a c k z a i v e r オランダ語と呼ばれた医療職群がいた。クワックという単語を英和辞典で引くと、「藪医者、偽医者」という意味しかでてこないが、前期近代のこの時点では、町に定住せず、巡回して医療の営業を行なった「巡回医療職」と理解し

ておくのが良いだろう。クワックという職種にもいろいろな種類があった。クワックは、三大別される。まず、専門職としてのクワックがいた。膀胱結石摘出医・ヘルニア修復師・目医者・歯医者などが、これに含まれた。次に、大衆のための医療職であるクワックがいた。それは、民間治療師・薬商・骨つぎ・吸玉師・肉眼的検尿者などであった。そして最後のグループには、全くインチキな医療を行なった手品医(摘石師)・ジブシー・魔女・悪魔払い、などがいた。

クワックは、外科医・産婆・内科医とは異なり、町に定住せず、巡回して医療の営業を行なった(日本でのガマの油売り・富山の置薬売りを想起していただきたい)。クワックたちは職能団体としてのギルドを、形成することはなかった。外科医がギルドを形成し、それが外科医師会として機能すると同時に、町政府と癒着し、町政府の医療部門も受け持ち、医療行政に関与したことと対照的である。外科医ギルドと町政府は、一体になって、町政府が公認した医療職を指定したが、クワックは、営業が外科医・産婆・内科医と競合しないごく一部が、町政府から

公認されたにすぎない。町政府から公認されたのは、主として専門職としてのクワックであった。それ以外のクワックたちは、営業分野が定住医療職と競合するために、町政府と定住医療職から、常に排除・迫害を受けた。しかしこの前期近代においては、定住医療職の治療法にも、効果の期待できるものは少なく（内科医の主な治療法は灌腸、外科医の主な治療法は瀉血）、その当時、クワックの行なった治療法の効果と、五十歩百歩であった。

十九世紀は、医師の資格が、均質化された世紀である。現在のパラダイムと同じく、包括概念としての医学が成立し、大学卒の医師で医療職が一本化された。ギルドのなかの徒弟奉公で教育された外科医も、大学で養成されるようになった。その際、もともと職能団体を形成せず、いかなる権力の庇護も受けず、ただひたすら大衆の医療ニーズに応じていたクワックたちが、この資格一本化の動きに完全に乗り遅れてしまったのである。かろうじて近代医療職の一部に食い込んだ歯科医を除き、クワックたちは、「藪医者・偽医者」と正規の医療職からさげすまれる職業になったのである。

一八世紀には、れっきとした医療職であったクワックについて、絵画史料を使い紹介する。なお、一般の西洋医学史書にこのクワックの記載がきわめて少ないのは、医学史という学問がもともと、大学を基盤とする内科医たちにより始められた学問であり、職能分野競合のため、彼ら自身が、クワックを敵視していたことにもよることを付け加えておく。

（公立新見女子短期大学）